

新潟県

平成6年

# 公民館月報

12月  
第502号

県大会分科会報告

## 特集 公民館体制の現状と整備の方向II



悠久の河岸段丘

恵まれた自然とふれあ  
いのあるまち、

『健康で明るいまち』を  
めざして21世紀に向けた  
土台づくりを進める町

津南町

(資料・写真提供 津南町  
公民館)

# 継続も大切！ 読ませる内容も大切！

## 第二回編集専門委員会開催

去る十一月四日(金)、新潟市中央公民館会議室で、平成六年度第二回編集会議が催された。議題は、本紙の下半期の編集に関するものと、今後の公民館月報の編集をいかに魅力的にするかということであった。



平成六年度編集専門委員  
上越・上越市立公民館副参事

中越・栃尾市公民館長 平丸 誠  
中越・塩沢町公民館長 佐野 直  
下越・新潟市公民館長補佐 渡辺 勝

下越・新潟市中央公民館事業係長 小島 一修  
県立生涯学習推進センター情報課 田村富美子

副参事 蒲野 衛

「特集シリーズ」くらしの課題を追って」で、まだ採りとげない課題の整理と、今日の課題の発掘の必要性が強調された。県内の公民館は、本年度の県大会の分科会で異口同音で訴えられていた「職員体制及び施設整備についての改善」について悩みや解決方策の模索が大きな課題になっているので、

## 期待に応える公民館の役割を考える

### 村上市岩船郡生涯学習振興大会開催

十一月二十五日(金)、平成六年度村上市岩船郡生涯学習振興大会が岩船郡山北町町民会館を会場にして開催された。

この大会は、管内の公民館連絡協議会と教育委員会連絡協議会関係者が中心となって研修を深めることを目的とした会である。

百数十名の参加者で主会場が埋まり、はじめにこの会に多大な功勞をされた六氏に表彰状、一氏に感謝状が、同市郡公連会長鈴木敏夫から贈られた。続いて研修テーマ「生涯学習

① 公民館主事等の生の声があるようにアンケート等で収集する。

② ホットな内容で、はっきりとしたような記事と見出しを。

③ 表紙、その他の空間をもっとうまく活用して今日的キーワードでひきつける。

④ 第一線の公民館職員の顔や声を、多くの機会をつくらせて載せる。

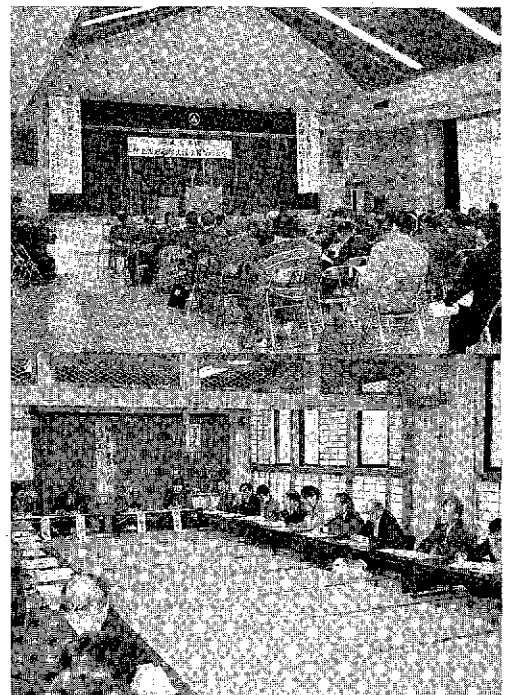
など新しいアイデアが続出した。次回の委員会では、平成七年度に向けての斬新な編集計画を立てたいという意見が強く出た。

### 山北町町民会館会場

時代における公民館の役割を考える」にそって全体会場で三氏の「話題提供」があった。その後、直ちにその発表を受けて三分科にわかれ、熱心な討議が行われた。

第一分科会「まちづくり拠点としての公民館はどうあればよいか」  
発表者 斎藤鶴二氏  
司会者 平田 誠氏

第二分科会「公民館の運営や職員体制をどうみなしたらよいか」  
発表者 遠山昭一氏  
司会者 松田 劫氏



第三分科会「いきいき学習にとりくむため公民館は学習情報をどのように提供したらよいか」  
発表者 井上スミ氏  
司会者 桜井昭一氏

数多くの実践発表が会員から積極的になされた。中でも集落公民館には住民がよく集まり楽しい事業となる。地区の産業や観光地の特性を考え、時期の工夫、人手の活用、など地の利を生かして弾力的に運営している姿が紹介された。

また、山層構造計画を立て、①中央公民館②地区公民館③集落(町内)公民館を連携した運営を試みて四年目の成果の紹介もあった。  
「公民館職員がやる気をおこすには——」という現実的な

テーマをとりあげて、日々の勤務の多様さと労苦を理解する上司でありたい、施設解放についての問題については市町村条例の見直しや、外部委託という体制を考えてみたいという提案もあった。

講演 下越教育事務所社会教育課長 住安 紀彦氏  
講演 「国際家族年を考えるー私らしく生きるー」

みだけ保育園長 橋本光子氏  
主眼は、「自然も大切、動物も大切、近くの人も大切、ーその中で私を生かすー」という含蓄の深い、住民とのかかわり方のところをやさしく説かれて閉会となり、成果をかみしめて散会した。

### 手島勇平氏(聖籠町公民館前社会教育主事)

## 祝 優良公民館職員表彰

### 全国公民館振興大会

去る十二月一日(木)、赤坂プリンスホテルで開催された第四十三回公民館振興大会において、優良職員・永年勤続職員を表彰式が行われた。

氏は昭和期五十二年から平成六年三月まで、実践面では形骸化しつつあった「成人式」を青年たちの手によるユニークな式

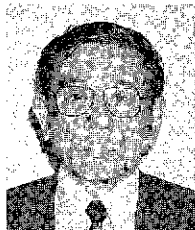
づくりの実践。高齢者を対象にした学級では、能動的なプログラム(キャンプなどの野外活動や創作活動)を取り入れ、第三十二回関東甲信越静公民館研究会において「地域の公民館にタネが生きている」を発表。これまでの功績を贅えるとともに今後の活躍を期待する。



## 視点

村から青  
年たちが姿を消し、婦人たちは働きに出て、公民館事業の主役だった青年団、

婦人会がしだいにその勢いを失って来た昭和四十年代後半、中心は子供たちや高齢者に代り、青少年健全育成、



### 盛んなり明治大正青年学校

坂井 蒸

すすむ

老人福祉など。しかし正直の所、何か物足りない、何んとか世の中で実権を握る大人、親父たちを公民館事業の場に引張り出せないか、と考えた。白い」と手心えはあった。

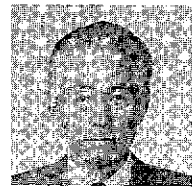
の年代には懐かしい「明治大正青年学校」とつけた。これが当たった、大成功。あれから二十年、婦人たちも仲間入りし更に学校は勢いを増し、名を「青空学級」と改め、秋の一滴の修学旅行には、最高の盛り上がりという明治大正青年学校。

老人の組織に入る一歩前の五十七歳から、六十三歳位までを拾い出して来た。現職村会議員はじめ大勢の親父たちがいた。よし、これで親父学級の名前をこの人たち

学習の味は親父の立場で最も関わりのあるもの、税金の申告は、年金は幾らもらえるか、遺産相続の手続き、樹木のせん定等々、学道あり。(潟東村収入役 元公民館主事)

## 六十の足習い

田川 勝美



我が羽茂町におきまして生涯学習の推進に取り組んでおり「生涯学習王国」を

イメージワードとし、学習(Study)、スポーツ(Sports)、奉仕(Service)の三つを実践目標に掲げ、3Sいきいきライフと名づけ、町民への啓発に努力しております。

## ひろる

走ると体中がすっかりりフレッシュした気分になり止められませんか。お陰で体重は八キロ減り標準体重に近づき、持病であったギックリ腰や腕の神経痛も全く起きなくなりました。人間ドックの結果は四十才代の前半と、本当に健康に自信が持てるようになりました。これからもずっと続けるつもりですが、年齢との戦いになります。ドクターストップがかかるまで走りつづけて行きたいと思っています。

生涯学習は、いつでも、どこでも、誰でも行えるものだと思いますが、スポーツともなると年をとってくるとそう簡単にはいきません。私も老齢期を迎える頃より運動不足が気になり、何かやらなければと思っていました。足を鍛えんと頭の働きを良くし、体も丈夫になるということを知り、六十の手習いならぬ六十の足習いでジョギングを始めたのが三年半ばかり前のことです。

学校時代から何十年も走ることなどなかったのが始めは本当に不安でした。少し走っただけで足や腰、体中が痛くなるとい

(羽茂町公民館運営審議会委員)

# 報告

## 現状と整備の方向Ⅱ



ここでエネルギーがわく

学習意欲はあるのだが、子供がいて、うまく学習できなくて困っている、という会員の発言に対して、ある市では現在

つづいて  
つねに第一線で住民と共に歩き、触れ合い、考え、にこやかに応待する公民館職員の中の人は人間的なよるこびと、人に言えない悩みや願いがああります。  
今年度の県公民館大会の「主事部会(市部・町村部)①、②を特集Ⅱとして編集してみました。  
語り尽くせない課題と、貴重な実践例が披露されたが、紙面の都合で不十分な表現も多いと思います。  
しかし、かなり本音に近い討議内容を掲載しました。読後感想や発展的な意見をお待ちしています。

### 第四分科会 職員部会

(市部公民館)

司会 三条市嵐南公民館副参事 半間一夫 氏

1 職員体制について  
公民館での自発的課題に対応するにはそれにふさわしい職員体制が必要である。新潟県も東京周辺のような専門施設があつて、土・日に休める体制がほしいという発言が多かつたし、その方向に進んでいるところもある。一方、代休、超勤をとるのが困難な市もあり、さらに人員削減が進められているところや、それぞれ事情の異なる市が足並みをそろえるのは、まだむずかしいようだ。

や分館は島流しのような存在になりがちなので勤務体制等に細かい配慮をする必要がある。またここは、非常勤館長や臨時職員の場合も多いので事故等のトラブルが起きないように中央館は常に配慮しておかなければならない。土・日に何も実施しない公民館はつまらないのではなにかという反論もあつた。若い年代層向けの事業には、自主的な活動計画を取り込んで実施して成果を上げている市もある。  
○乳幼児を持つ親の教育の場合など  
講座例：「女性セミナー」井戸ばた会議「子育てセミナー」県外転入親の会(保育園入所前)「奥様サマースクール」



学習意欲はあるのだが、子供がいて、うまく学習できなくて困っている、という会員の発言に対して、ある市では現在  
一五〇人くらいの保母等に登録制を採ってまかない、一回三時間について二、一〇〇円、二、二〇〇円の報償費を支払っている。登録者(二十歳後半〜六十歳代)は年一回の研修を受けている。受講者は二時間安心して学習できる。他の市では、保育ボランティアを積極的に申しこんでもらって、講座に割り振っている。ボランティア保険を使用し、市予算として昼食代を六人分確保しており、参加費からも昼食代をだしている。また、ある市では中央公民館と地区公民館とで合体しながら、保健婦と一緒に保母、衛生局員からも協力してもらって三歳児対象の母親が集まって学習している。

2 ボランティアについて  
○ボランティア一人あたり何人まで幼児を保育できるか、という質問に「二歳以下の幼児三人」「二歳以上五人に一人」、単に「子供三人に一人」という発表があつた。  
また、ある市ではボランティアをしてもらっているが、伸び悩んでいて人材不足である。昔は、公民館は、あこがれの場所であつたが、今は心離れの時代になってしまったのだろうか。  
3 自宅学習について  
これからは、行政、公民館が支援してネットワークづくりをし、若者も高齢者も、個人で自宅学習ができるようにすることが必要でないか。  
4 生活課題について  
市の道路事情や地域の文化財産について、地区の視聴覚ライブラリーと連携して、「生き生きプラン」の推進に相乗りして、課題の発掘につとめている。  
すぐれた講師や大学の教授の講演内容だけでなく、地域の女性、親たち、高齢者たちの豊かで暖かい経験談などで得た情報を、一人胸のうちにしまっておかないで、地区に持ち帰って、より多くの住民に広めてもらうという二段方式をとっている市がある。そういう意味でもやはり地区館は重要で、果たす役割は大きい。  
(出席者62名)



# 県大会分科会 特集 公民館体制の

## 第五分科会 職員部会

(町村公民館①)

司会 堀之内町公民館主事 小島克朗 氏

### 1 職員の勤務態様について

最近、土・日・祭日の勤務はあまりしていない。講座や学級には、参加生の自主性にゆだねており、職員は直接出勤していない。公民館職員も役場の一般職員と同じような勤務体制にするようにしている。

勤務を要しない日の出勤は、必ず代休がとれるようにしている。

主事部会を設けている他県での報告であるが、ここは、事業が計画的に展開できるように一定の枠組みをしており、公民館職員が休日等に常に勤務していかなくてもすむようにできる。公民館職員として使命感をもって勤務することも大切だが、無理でない勤務時間体制工夫していく必要がある。

社会教育は範囲が広い。各部門別に職員を配当するようにしたらどうか。また、公民館事業と社会教育事業と内容や事業をはっきり切り離していくことによって、公民館職員が社会教育似携わる者に、役場の一

般職員とは異なる重要な職種なのだという使命感や自覚が生じるのではないだろうか。

講座、学級、グループ、サークルを支えるための準備をし、公民館主事は学級生から体性を持って貰うように、その人たちが生かす。次への継続としては、講師と相互に相談しながら発展的な内容になるように人間関係をつくる手伝いをする。

アメリカでは社会教育、公民館事業での受講者に対するカウンセラーのような役割の人を置いて住民の相談を受け、講座や調査内容の選定の手伝いをしていく。

このような体制を整えて住民の声も吸い上げ、ガイドできる職員の配置がほしい。

### 2 町村ではどんな事業をやりたいか

(1) 学校教育の現場としては、休日が増えていくことが目の前で見えているので公民館や社会教育の場や力を借りたい。そのとき、どこに相談や依頼をしていいかわからないので、機能や

事業分担等がよく分かるような案内がほしいという声がある。学校としては、休日や祭日等に公民館活動ができるようにしてもらおうと助かると言われている。

(2) やる気のある人を対象にした講座や学級を開きたい。住民の中から自発的に出た課題に対して援助や補助をしたい。なんとしても、学習意欲のある人たちの集まりで構成したいのが本音である。

○ 公民館と社会教育課が同居している町村が多い。なかには、学校教育課と公民館が一緒になっている町村もある。そこではゆったりした活動ができない。公民館活動に対して理想論をもたないと勤務をつづけられない。

○ 公民館職員をずっと続けたという職員がかなりいるという発表もあって、「羨ましい」という声も出た。経験者不足で派遣社会教育主事がほしい。

(3) 住民の意識や要求度も年々高くなり、期待される我ら職員も悩み多く、多忙な毎日だが、館長や社会教育係が知恵と汗を出しあって何とかこなしている。



○ 今年、公民館に初めて異動してきたが、役場の一般職とあまり違う職種なので毎日が大変である。

○ 教育長と公民館長が兼務であるが住民との触れ合いに一杯努力しているという町村もあった。

○ 「受講料」の徴収について 講座開設にあたり受講料を徴収した場合は一般会計に繰り入れるが、材料費の受講料はそういう処理はしない。

(出席者三三名)

# 第六分科会 職員部会

(町村公民館②)

司会 湯沢町公民館 係長 高橋政弘 氏

## I 勤務体制について

勤務年数は年を追って短期間  
になっている。

勤務体制は役場の一般職員と同様で多くは8時30分から17時15分である。

休日の事業に従事した場合は一日中の事業は代休として扱い、

休日、夜間の通常の講座は超過勤務として処理する。休館は条例上は年末年始のみである。常勤は館長をふくめて7名。図書室は夜10時まで開いているが時給一時間七五〇円で、管理人



を雇用してまかなっている。

- 月曜日閉館。超勤は平日にとり、代休は日曜日にとっている。宿直代行制で高齢者のしつかり者からしてもらっている。
- 西蒲原郡は火曜日の休館が多い。
- 三六五日、宿直は職員が、月一〜二回担当している。常勤職員は9名で、休日の出勤は超勤で処理し、非常勤職員は代休制である。
- 土・日の勤務は、社会教育課と土・日勤務希望職員と交互に勤務している。休日は代休。
- 月曜や火曜の休日は家庭人や地域人としては仲間入りできない。土・日は休みたい。
- 公民館職員は、庁舎と別の建物に勤務しているので、なじめない感がある。役場職員には代休制をとっており、公民館職員には超勤をとっている。
- 公民館は土・日は休む。この日は、各講座は自主運営してもらっている。(他の町村は自主運営は20%くらいとみている)
- 体育館は土・日の事業が多い。
- 体育行事の現状
- スポーツ行事はそう多くない

が、体育協会が公民館の事務室の中にあるところや体協が主体となってスポーツ関係行事を実施している市町村もある。

○体育行事は、主管は各種団体とか、主催は〇〇とかをはっきりさせて実施した方がよい。公民館職員は、当日はセレモニー(開、閉会式など)に関わる場面で協力をするようにしている。

○体育協会へ補助金は出しているが連盟での登録団体外への大会にはそれはつけない。

○社会教育委員が中心となって作成したスポーツ振興計画(生涯スポーツ振興基金を設置)が現在進行中である。

○現在まだ体協の事務局の組織が確立していなくて、運転士を総務課から回してもらったりしている。

(2) 事業への取り組み

○テーマを掲げて各担当が、単なる行事屋や事業屋にならないように趣旨や信念を通す努力をしている。

芸術文化は「〇〇〇〇」、生涯学習は「◎◎◎◎」、家庭教育は「△△△△」などと明瞭な Motto をつくっておく。

○ことは目立って職員の入れ替えがあったが、公民館と教育委員会共催で「講座・学級」「体育事業」をもっている。講座に

出て活動の様子や反応を見てみると雰囲気(意識の高低、自主運営能力をもったサークルなど)がよく分かるので、よく観察評価することができると。

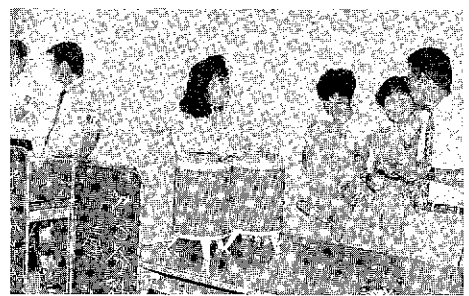
○連絡ノートは各学習団体から書いてもらい、自主学級でも、月一回は担当者が顔を出している。事業の評価も忘れないように努めたい。下から盛り上げるには時間がかかるが、運営の手ほどきをいねいにしたり、連絡ノートを生かしたりして蓄積しておくとお互いに育つようだ。

○評判がいいので、カルチャー講座を村の公民館でやっている。自主サークルの世話役と連絡を密にして、職員は運営の補助をする程度で活動はほぼ主体的に行われている。

○陶芸教室や深みのある講座になると何年も受講を継続してやめない人が多くて、新人が入級できないので、年度制限をしたり、中級講座をつくってランクを上げたりして工夫している。

○異動を考えて、たとえ誰が転入してきてもやれるような基本的なプランをつくったり、システムが崩れないような機構にしておくことが大切だ。

○地域の山に関係した自主講座を計画したら、地域の意欲的な人や、その山に詳しい人たちが積極的に資料や意見を提供して



ホッとひといき

かれて継続ができています。○以前よりも公民館の事業が減っているのは自分たちの所だけだろうか。

趣味的な講座等は一年目は町の文化協会から協力してもらって内容の充実を図っている。二年目からは自主運営してもらおう。高齢者大学は毎年開催して継続が長い。

○図書室(館)のことについて  
開室時間を延長してほしいという要望がある。今は9時から18時まで開室している。

9時から20時まで開室している。モニターカメラをつけているが入入室の統計内容が正確であるなどの報告があった。

(出席者三四名)

# サークル交流

## 歌う喜びいつまでも

### 柏崎市米山公民館 米山カラオケクラブ月曜会

私達クラブは平成四年一月に歌の好きな者同志が集まって、作られたまだ新しい会です。例会は毎月、第二・第四日曜日に公民館をお借りしています。

当初会員は七名でしたが、今では十三名にふえて楽しく活動しております。最初は公民館の機械を借りての練習でしたが、平成五年一月にレーザーディスクを購入し歌っています。当初より二・三ヶ月に一曲、



課題曲をきめて、テープを全員に配布し各家庭で練習を行い、例会日にそれぞれが歌い、それが終ると各自が自由に曲をえらび歌います。

会費は月千円で運営しています。その会費の中からカラオケボックスに出掛けて歌ったりしています。その他に、全員で毎月旅行積立をし、今年始めて旅行に行ってきた。

このように小さな会ですが声の出る限り、町内会及び公民館等と密着した会としてこれからも続けて行きたいと思っています。

(米山カラオケクラブ 八月曜会)

会長 茂田井 貞 記

### 太掉の響きに夢をのせて

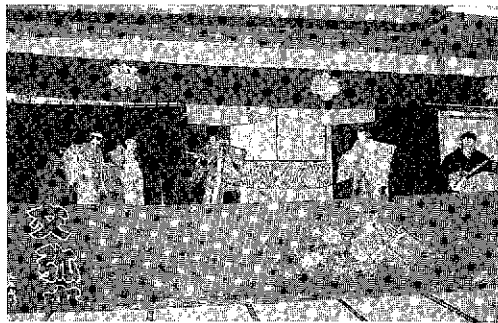
#### 畑野町文弥人形研究会

中村 座

太掉の響きに乗せて語られる浄瑠璃「文弥節」かつては盲人の座語りとして聞く人の涙を

語ったのであるが、人形と合体して人形芝居となり、一躍世に迎えられる事になったのは、明治になってからである。その後映画、テレビにその座をうばわれ衰微したのも時の流れであらう。

昭和五十二年国の重要無形民



族文化財に指定され各町村に復活の機運が高まって来たのである。わが「中村座」が結成されたのは昭和五十八年であるからやっと十年が過ぎた所である。

丁度人形から舞台一式を所蔵している方があり又、多年文弥節の語りを修業している太夫もいたので、素人の使い手五人が集って一座の出来上がりとなった訳である。今は町の芸能祭や観光祭又、観光協会や島内の人形発表会にも出演している。

演目は近松門左エ門の作品が多く、義理人情の世界は古いといわれそうであるが、日本人の郷愁の様なものもある。

座員五名新人の加入を待っている。

(中村座 高野藤右エ門 記)

### 小国町中央公民館主事

田中 功 氏

配属二年目を迎え、社会教育主事を兼務で頑張っている。胴が比較的長く、腹が若干出ていて色が黒い、酒が強くて食欲旺盛で、とにかく何んでもよく食べる雑食タイプの豪傑である。



この紹介で読者はおそらく怪物を想像されるでしょうが、彼はまさしく怪物である。朝は早ようマラソン、昼は

社会教育事業を担当し、夜は各種の講座を運営している。

休みには、大好きなテニスに熱中しているが、これが実にうまい。さらにカラオケがプロ級ときている。飲んだ勢いで周囲の迷惑を顧みず歌いまくるボーイソプラノには聞き惚れてしまう。

昨年、社会教育主事講習を受講し、彼の手腕にさらに磨きがかかってきた。当館になくはない存在である。近い将来黒いスーパーマンが昼夜を問わず飛びまわることだろう。

(小国町教育委員会 牧野克己 記)

## 素顔 拝見

### 糸魚川市小滝公民館主事

中村 久和 氏

ひすいのふるさと糸魚川、そのまた原産地である「ひすい峡」を有する小滝地区で「市民主導型」公民館の主事として地域に根ざした独自の事業を展開している。



ならず地域の人望も厚く、実に頼りになる人である。

この道一筋に9年目を迎えた大ベテランの彼は、この雄大な自然に恵まれた地域を愛し、住民と一体となり日夜奮闘している。

大担にして且つ繊細な神経の持ち主であり、安定感のあるその体型も手伝って、公民館のみ

(中央公民館 K 記)



# 継続は金なり 祝「文芸さんぽく」第十号発刊

## 町に深く根ざした文化

岩船郡山北町は平成四年度に三〇〇号公民館報縮刷版をすでに発行し、現在も四〇〇号に向けて住民に語り続けています。長期的に公民館報を発行している市町村はかかなりありますがこのたびは「小須戸公民館四七九号」「新生五五八号」「入広瀬村」を紹介します。こうして公民館活動に力をいれて広報されている市町村をお知らせください。



ずらり「文芸さんぽく」

### 小須戸公民館報



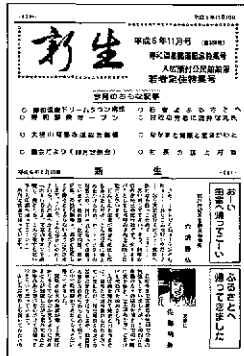
まもなく500号をむかえる

大判(三六二ミリ×二七二ミリ)だが、表・裏に時宜を得た内容と予告・「今月のナイスショット」努力した人々の紹介・文芸と、端的でアピール性のある表現で読者をとらえている。また、記事の配置と適時性があつて洗練されている。

### シンプルにして豪華 「小須戸公民館報」479号

号数の多さだけでなく、登場人物、取材範囲の広さ、常掲的なシリーズものの定着、表紙での特集内容の朱文字と今月の主な記事の案内、22〜24ページの豪華な内容は、二、二六六人の住民を励まし続けてきたに違いない。

「若者定住策」五つの事業  
「村長の誌上対話」  
「寿和温泉開湯でぬくもる村」  
「ドリームタウン構想」  
村の行政とよくタイアップして違和感がないのも苦勞して作っている証拠。みなさんと一緒に声援をおくりたい。



十号をお祝いして、とびらに全巻の味わいのある表紙が写植してありましたので、思い出される方も多いかと思ひ転載させていただきます。

内容は、随筆Ⅰ・Ⅱ、短歌、俳句、川柳、詩、小品、小説、応募者と読者を大切にしたい親切な「編集後記」は山北町ならではの見応えがあります。B5判・二二五頁・応募集数五三六篇

(問合せ) 岩船郡山北町教育委員会(へ府屋二三三・電話〇二五四(七七)三一一一)

おーい田舎へ帰ってこーい  
「新生」入広瀬村  
公民館報558号

各市町村では住民との意志疎通に欠かせられないものとしてちからを入れて広報の発行にとめていく。

「新生」(入広瀬村公民館報・創刊昭和二十六年二月、五五五号、五五八号の一部を紹介します。

### あとがき

◆暮歳旧好の忙月が一気にやってきました。県大会の分科会の記録を連載してきましたが、現場の生き生きとした声と、前進的な取り組みが各所にうかがえられました。

◆月間公民館誌上セミナー「Q&A」で、大会のいくつかの分科会で語られた「受講料の徴収」について、去る九月号P26、十月号P28で一文が載っています。ご参照ください。

◆お問い合わせやご投稿に、ファックスをご利用ください。当事務局と隣合せている県社会教育協会事務局さんのご厚意で使わせていただいています。

FAX番号

〇二五―三二八―二四一九 (鴨井記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 細川 仁

編集人 事務局長 鴨井 三郎

【定価1部130円 年共・年極1,560円】